

シリーズ「**つしま**さいこう」③

いざ！ といふときのために ～ 災害に備える～

上県町仁田地区



上対馬町比田勝地区



豊玉町廻地区



上県町佐護地区

3月11日、日本を襲った未曾有の大地震。気象庁観測史上最大のマグニチュード9.0、最大震度7を記録。さらに東北から関東を襲った大津波は、そこに住まう人々の生活をひと呑みにしたばかりか、福島第1原子力発電所の放射性物質漏出事故を引き起こすなど、各地に甚大な被害をもたらしました。

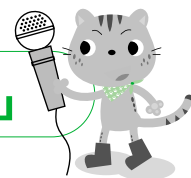
一瞬にして私たちの日常生活を奪い去る自然災害は決して他人事ではありません。対馬でも台風、大雨などによる被害は後を絶ちません。いざといふときのためにあなたは何か備えていますか？今月の「つしまさいこう」は、大雨による被害が心配されるこの時期に、自分たちの身を守るための防災を「再考」します。

忘れていませんか？ 対馬で起こった自然災害

(平成11年以降、報告があった主なもの)

- H11年8月27日 大雨により峰町で死者1名 家屋半壊1世帯 床上浸水13世帯
豊玉町でも床上浸水119世帯 床下浸水229世帯
- H15年9月12日 台風14号により峰町木坂漁港の防波堤6函が滑動
- H17年3月20日 福岡県西方沖地震により震度4
- H17年8月2日 大雨により厳原町で床上浸水6世帯 床下浸水29世帯
- H18年7月10日 大雨により対馬全域で床上浸水42世帯 床下浸水184世帯
- H19年8月29日 大雨により美津島・豊玉町で床上浸水13世帯 床下浸水87世帯
- H21年7月15日 海面昇降(あびき)の発生により上県町で浸水被害
- H22年3月10日 大雪により厳原町で積雪16センチを確認 各地で交通規制
- H22年7月10日 大雨により上県・上対馬町で床上浸水24世帯 床下浸水71世帯

市民に聞く「あなたの災害経験・防災意識」



山根高義さん(厳原町)



東日本大震災の被害現場に行ってきました。運送業を営んでいる関係で石巻市や気仙沼市に足を運んでい

た私は、テレビのニュースを見てもたってもいられず、何か自分にできる支援をと、所有するトラックに知り合いを通じて集めた救援物資を載せて2回、現場に向かいました。被害を目の当たりにしたときは、あまりの悲惨さに言葉が出ませんでした。私が仕事先で目にしていた場所も変わり果て自然災害の脅威を実感しました。その光景は今でも頭から離れません。

私自身、自然災害による被害経験はありませんが福岡県西方沖地震の時は、高台に住んでいたのですがこのまま崩れてしまったら...と心配になった記憶があります。

震災の影響を受けなかった対馬にいと、正直災害というものに疎くなってしまいましたが、防災と同時に支援のための細やかなネットワーク構築も大切だと思いました。

府内寿美さん(厳原町)



昨年4月に埼玉から対馬へ引っ越してきました。小さな地震はよく経験しました。学校

ではいざというときに備えて防空頭巾の役割をする座布団が椅子に敷かれていました。

またほとんどの家庭では非常用の持ち出し品がリュックに詰められて玄関に置かれていました。

対馬に来て地震はありませんが、海のそばで暮らすのがはじめてなので、震災の影響もあって今は津波が心配です。また去年は大雨による道路の冠水も経験しましたので梅雨時期を迎え気になっているところです。

大雨が降るとあの山は崩れてこないだろうかと考えることも。

住むところが違えば対策もいろいろ必要だと感じます。実はまだ避難所も知らないんです。どこが危険か、どこに逃げたらいいかなど防災意識を高めなければと思っています。

渋江龍也さん(美津島町)



自然災害といえば、小学5年生の頃、近くの雞知川が増水してたちまち床上浸水、自分の首の辺りまで水

かさが増し、テレビなどが浮かんでいたのを思い出します。初めて災害の恐怖を味わいました。

その後も、何度か浸水被害がありました。そんな経験があり、雨の状況によっては、早めに川の様子を確認したり気象情報に注意するようにしています。

2005年の福岡県西方沖地震で家がゆれた時はどう対応してよいか分からずあわててしまいました。地震対策を知っていればと反省しました。

先日の震災を受け、対馬にも津波が来たら...と考えるようにもなりましたね。いざというときはこの裏山に登ろうと家族で話したばかりです。消防団員を経験したり、商売をやっている関係で配達に回ることも多い私は、一人暮らしの高齢者の把握なども意識して生活しています。自分の住む地域のハザードマップがあったらと思います。

梅雨に入り心配されるのが集中豪雨です。

前ページでもわかるように、対馬では水害が目立ちます。

市内で道路の冠水が特に心配される地域は次のとおりです。



急な増水は思わぬ場所を危険地帯にします。

今一度、皆さんが生活している周辺の確認をお願いいたします。

大粒の雨が降ってきた、水かさが増す、水が濁ってきたなど、「あやしい」と感じたら即行動！

即避難！を心がけましょう。

気象情報のチェックも忘れないで！

災害から身を守る日ごろの備え・基本知識

地震

速報がでたり揺れを感じたら、丈夫な机の下などに隠れ頭を保護する。

揺れを感じたら直ちに火の始末。ただし、揺れが大きい場合は、おさまってから。

避難指示が無くても、家具の倒壊や火災発生時にはただちに避難。

外にいるときは空き地などに避難、自動販売機などには近づかない。

車中にいるときはエンジンを切って停車。避難が必要なときはキーをつけたまま車検証や貴重品を持ち出し、徒歩で移動。

日ごろから家具の安全確保を行っておく。



土砂災害

家の裏が急傾斜地である場合、過去に災害が起こった周辺は特に注意。

長雨、豪雨の時は特に警戒が必要（大雨・洪水警報をチェック）。

亀裂ができたり、山鳴り、湧き水、小石の落下など土砂災害前に起こる様々な前兆現象を知っておく。

土石流のスピードは時速20キロ～40キロですぐに追いつかれる。土砂の流れる方向に対し直角（90度）に走って逃げる。



台風・高潮

テレビやインターネットで情報を確認。

窓ガラスにガムテープを張りカーテンを閉める。

停電や断水に備える。

浸水に備えて高いところに避難。

車の使用を控える。

川やがけに近づかない。

突然の飛来物に注意する。



津波

津波は猛スピードで押し寄せてくるので、海岸を見てからでは遅すぎ。強い地震を感じたり、警報・注意報がでたら直ちに避難。

逃げるときは「より遠く」ではなく「より高い」場所へ。

原則として、車での避難は避ける。



浸水警報装置を設置

5月30日、道路の冠水が特に多発する上県町佐護地区に、危険水位に達したらサイレンと赤色回転灯で周囲に報知し、かつ関係機関に自動通報する装置を設置しました。



もし災害に遭ったら

みなさんがお住まいになっている地域内で、「災害に遭った」「見た」という場合は速やかに市役所または各地域活性化センターまでご連絡をお願いします。自然災害での保険給付等に必要な罹災証明書は市役所で交付します。

もしもの時は...?

対馬市内では公民館や小中学校・保育所、各集落の集会施設のほとんどが避難所として指定されています。しかし、今回の大地震・大津波でもわかるように、災害によっては避難所として役割を果たさない場合もあります。

有事の際に「どこへ逃げるか」「どう避難するか」「家族との連絡方法は」など、ご家族で今一度確認してみましょう。



非常持出品・備蓄品

- ・非常持出品はリュックなどに入れて、すぐに持ち出せる場所に置きましょう。
- ・停電、断水などに備え、備蓄品も準備しましょう。



非常持出品



備蓄品

非常持出品や備蓄品は定期的に点検、入れ替えをしておきましょう。

災害用伝言ダイヤル「171」

- ・災害によって電話が通じなくなったときのために、NTT災害用伝言ダイヤル「171」を覚えておきましょう。

171+1

+自分の家の電話番号など
(メッセージを録音)

171+2

+自分の家の電話番号など
(メッセージを再生)



録音



再生

災害用伝言ダイヤルセンター

携帯電話の「災害用伝言板サービス」も使えます。

東日本大震災は、遠くの出来事でありながらも対馬に住む私たちに自然災害の恐ろしさ、悲しさを今も強く感じさせています。被災地への支援を考える一方で、「自分が遭うかもしれない」「自分が災害に襲われた時はどうすればいいのだろう」と誰もが考えたはずです。

ここ対馬は地震が少ないといわれ、今回のような大地震・津波などに見舞われる確率は少ないかもしれませんが、しかし、「忘れたころにやってくる」のが自然災害です。

「いざ」というときのために、私たちができること・・・。

備えを万全にし、被害を減らす工夫・努力を怠らないこと。

まずは「自分」が、そして「家族」で、「地域」で「職場」で・・・、この機会にぜひ防災を見直してみましょう。

消防本部からのお知らせ

対馬市消防団員募集

「自分たちの街は自分たちで守る」
地域防災活動のリーダー

問い合わせ 消防本部 総務課 0920(52)9092

